

観天 望気

地域から日本を創り直す

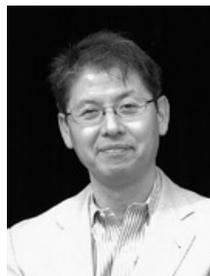
2020年代が始まって、もう2年以上が経つ。コロナ危機やロシアのウクライナ侵略で世界は騒然としている。しかし、私たちの国は、まだ「失われた30年」から目覚めようとしていない。

この30年、世界は、社会を新しい新進気鋭の若者や女性が引っ張っていく時代となっている。例えば、幸福度の高い国として知られるフィンランドでは、2019年、34歳の女性首相サンナ・マリン氏が登場している。20代で起業した経営者が引っ張るGAFAの株式時価総額は、東京証券取引所一部上場企業の合計を上回る。

一方、日本では、東京オリンピックの不祥事に示されたように、相変わらず、中高年男性の既得権が重んじられ、リスク回避が最優先されるなか、個人の才能と努力が覆い隠されている。閉塞感は、これまで生きてきた時代でなかったほど濃い。今、生まれてくる子どもたちは、ほぼ確実に22世紀、2100年まで生きる。彼らは、あとで今の時代を振り返って、今までの失敗を認めず「逃げ切り」を図る今の大人世代を、歴史的にどう評価するのだろうか。

これからは、待ったなしの「循環革命」を成し遂げる時代である。日本も、2年前に、遅ればせながら、2050年までに脱炭素社会を実現することを表明した。これまでの「大規模・集中・グローバル」一辺倒の文明を根底から組み直し、「小規模・分散・ローカル」に基づく循環を創造的に構築していくことが求められている。高度経済成長以来の成功モデルの延長線上に解はない。果敢なチャレンジを地域・分野を横断して同時多発的に展開し、その成功と失敗のDNAを速やかに情報共有し、共進化を図るような今までないアプローチが必要だ。

私は、来るべき循環型社会の基本単位として、「循環自治区」の創設を提唱している。この2020年代、再生可能資源やエネルギーに恵まれた農山漁村から、300人から3000人程度の地域社会を循環型社会の基本ユニットへと進化させるステージを、若者世代を主役として始動させたい。



藤山 浩

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長

ふじやま こう

1959年島根県生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士（マネジメント）。島根県中山間地域研究センターなどを経て2017年より現職。国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析（人口・経済）。著書に『日本はどこで間違えたのか コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊』（河出書房新社）など。